



(磐田)

調査の結果、遺跡は弥生  
調査を行った。  
調査の結果、遺跡は弥生

# 静岡・山<sup>やま</sup>の神遺跡<sup>かみ</sup>

- 1 所在地 静岡県浜松市和田町
- 2 調査期間 一九八七年(昭63)八月～一九八八年八月
- 3 発掘機関 浜松市教育委員会・静岡浜松市文化協会
- 4 調査担当者 佐藤由紀男・森田香司
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

山の神遺跡は、浜松市街地の東約4kmに位置し、天竜川の形成する沖積平野上に立地して、東西を天竜川の支流である安間川・馬込川に囲まれている。

時代後期と平安末～鎌倉時代の二つの時期に集中していることが明らかとなった。木簡と関連するのは後者であり、当時は環濠集落の景観を示していた。遺跡周辺には、伊勢神宮の内宮を領家とする蒲御厨が立荘されており、蒲氏を中心として、荘園の開発が進められていた。したがって環濠の役割は、敵から身を守る防禦というよりも、天竜川の氾濫から田畑を守り、開発の単位を区画する施設となると考えられる。その区画は一辺約一〇〇m、つまり一町を単位として掘られており、その中に数軒の掘立柱建物・井戸・区画溝、そして田畑が作られていた。また遺物の年代によって、北側から開発が始まったことも推測される。

木簡は井戸SE一〇とSE二二から、各一点出土している。SE一〇は曲物二段を井筒とする径一・九mの円形の井戸であり、深さは検出面より1mで海拔三・五mである。掘形はほぼ円筒状になっている。木簡は曲物の一段目と二段目の間で、北西の位置に差し込まれていた。SE二二も曲物二段を井筒とする径一・七mの円形の井戸で、深さも検出面より1m、海拔三・五mとほぼ同規模の井戸である。木簡は曲物の周りに差し込まれた五、六枚の縦板の内一枚であり、曲物から見て北東の位置に差し込まれていた。木簡の年代は共伴遺物がないため不明であるが、遺構のあり方からみて、およそ平安末期から鎌倉時代(一二～一三世紀)と考えられる。

木簡以外にも井戸枠・曲物等の木製品や山茶碗・灰釉陶器・土師

器等の土器類が出土している。山茶碗のうち十数点には墨書が見られ、当時のこの地域の地名となる「長田」の他にも「芳」「東」「中」「上」等がある。また家畜の使用を暗示するような牛馬の骨片も出土している。

## 8 木簡の積文・内容

### (1) 「×」宛□□□十羅刹女鬼子母神

(265) × 40 × 2 0.51

井戸SE一〇から出土。この木簡は呪符木簡の性格を有する。出土状況からみて井戸が壊される時に差し込まれたのではなく、作る際に差し込まれたと考えた方がよい。

### (2) 「井 小□月十日之□□」

294 × 129 × 12 0.11

井戸SE二二から出土。「月」の上の判読困難な一字は画数と字形からみて「二」か「三」または「五」であろう。

## 9 関係文献

浜松市教育委員会『山の神遺跡発掘調査報告書』（一九八九年）

（森田香司）

## 木簡研究 第二〇号

巻頭言——木簡学会の十年——

原 秀三郎

一九八七年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 興福寺勅使坊門跡下層 藤原宮跡 藤原京跡  
藤原京左京九条三坊 紀寺跡 長岡宮跡 長岡宮・京跡 鳥羽離宮跡  
千代川遺跡 矢谷遺跡 大坂城跡(1) 大坂城跡(2) 梶原南遺跡  
宅原遺跡(豊浦地区) 長田神社境内遺跡 書写坂本城跡 砂入遺跡  
跡 杉垣内遺跡 清洲城下町遺跡 岩倉城遺跡 勝川遺跡 荻安賀遺跡  
山中遺跡 小町一丁目一〇七番地点遺跡 宮町遺跡 川田川原田遺跡  
光相寺遺跡 妙楽寺遺跡 釜淵遺跡 南古館遺跡 大櫓遺跡  
手取清水遺跡 角谷遺跡 横江荘遺跡 白環遺跡 草戸千軒町遺跡  
延行条里遺跡 長門国分寺跡 安養寺遺跡 金光寺跡推定地 博多遺跡群  
(築港線関係第三次調査) 吉野ヶ里遺跡群 本告牟田遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一〇)

平城宮跡(第四四次)

中世木簡の一形態——山札・茅札についての覚書——

石井 進

雲夢睡虎地秦墓竹簡「日書」より見た法と習俗

工藤元男

木簡の保存処理

沢田正昭

彙報

『木簡研究』六〜一〇号総目次

研究集会報告一覽

木簡出土遺跡報告書等目録

木簡出土遺跡一覽

頒価 三八〇〇円 寺崎保広  
〒四〇〇円 寺崎保広